

令和7年産 大豆情報 (Vol.1)

令和7年7月28日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612

Fax : 0225-95-2999

技術情報はこちらのQRコードからも！



6月以降の気象経過

- 6月の平均気温は、平年よりかなり高く推移しました（6月の歴代2位）。日照時間も長く（平年比133%）、降水量は少なく、平年比48%となりました。
- 7月上旬～中旬の平均気温は平年より3°C高く、日照時間は長く（平年比134%）降水量は平年比5%と極めて少雨でした。
- 東北南部は平年より2日遅く6/14に梅雨入りし、7月18日ごろ梅雨明けしたとみられます（平年より6日早く、昨年より14日早い）。

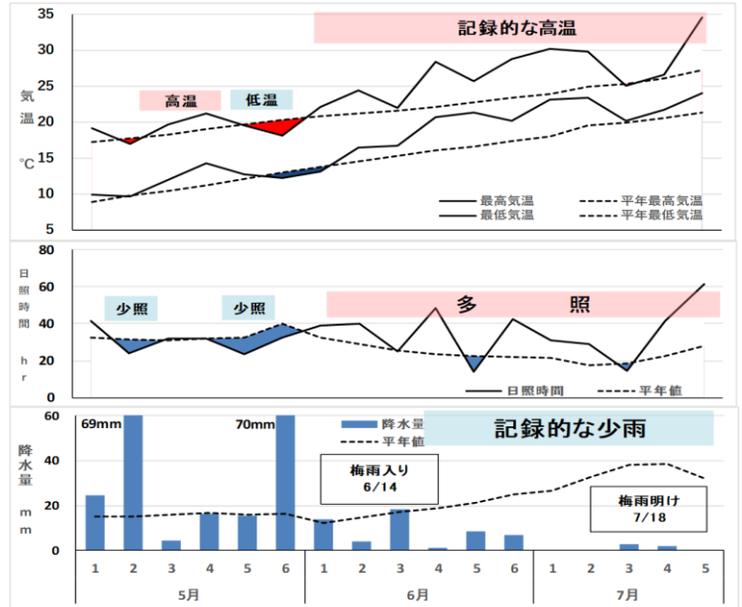


図1 気象経過（アメダス石巻：半旬別）
※上：最高・最低気温、中：日照時間、下：降水量
※点線は平年値

生育調査結果 (7月25日)

○高温及び乾燥により、出芽ムラが見られる
主茎長は短く、分枝数はほ場により傾向が異なる

表1 生育調査結果（7月25日調査）

品種 (作型)	地点名 (旧市)	播種日 (月日)			主茎長 (cm)			主茎節数 (節/本)			分枝数 (本/本)			分枝数 (本/m ²)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比
タンレイ (麦あと)	須江 (河南)	6/16	+5	-	39.8	69%	-	12.3	+0.9	-	0.9	54%	-	11.8	55%	-
ミヤギシロメ (普通)	小船越 (河北)	6/17	-2	+9	30.8	80%	64%	9.3	+0.9	-0.5	1.8	614%	180%	13.7	406%	116%

※1 平年値：R2～R6の5か年平均

※2 「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す。

※3 タンレイ（須江）は令和6年産から調査開始のため、平年比・差はない。



開花状況

○ 開花期は平年並～やや早まっている傾向！

紫斑病対策には適期の薬剤散布(開花期後20～40日)が重要です。

開花期を確認して防除日を決めましょう。

開花期は、「1つでも開花の見られた株が全株の4～5割に達した日」です。開花は、ほ場の外からでは判断しにくいので、必ずほ場の中に入って観察し、正確に判断しましょう。



開花期の把握がずれると紫斑病の適期防除の時期がずれ、防除の効果が低下します

今後の管理

記録的な少雨による乾燥のため生育が停滞しています

◆乾燥対策 中耕培土→畝間灌水で水分補給を行いましょ

- ◎ 暗きよの水閘を閉じて地下水位の低下を防ぎ、水分保持に努めましょう。
- ◎ 中耕培土をまだ実施していないほ場や1回しかしていないほ場は、中耕培土を行いましょ。中耕培土の実施により不定根の発生が促され、養水分の吸収が増加します。土壌の保水性も向上します。
- ◎ 培土により畝立てをすることで、畝間灌水を行うことができるようになります。
- ◎ ほ場の排水機能が高く、畝間かん水が可能な場合は実施しましょ。

明きよや畝間内に、土壌表面にしみ出す程度まで通水すれば十分で、水が停滞すると湿害を助長するので、大量の水を短時間で灌水しましょ。大区画ほ場の場合、ほ場全体に1回で補給するのは困難なので、数日に分けて灌水しましょ。

※ 中耕により断根されますので、畝間灌水とセットで実施しましょ。

畝間に滞水した状況が続くと、根を傷めますので、灌水の量・時間には留意しましょ。



畝間灌水の実施の様子 (7/25)



FOEAS(地下灌漑) による水分補給 (7/25)

◆病害虫対策

タンレイ：紫斑病防除を最優先

ミヤギシロメ } フタスジヒメハムシ、カメムシなどの子実害虫防除を優先
タチナガハ }

・葉を食害するチョウ目の発生量はやや多いと予測されています。また今年も高温傾向が予測されているため、ハダニの発生にも気を付けましょう。

◎ 紫斑病

降雨が多く収穫時期の気温が高いと発生が多くなります。特に多発しやすい**タンレイ**は開花期後20～40日に2回防除しましょう(同一系統の剤の使用は避ける)。

* 県内でQoI剤の感受性低下菌の発生が確認されています。前年に紫斑病の多発が見られ、剤の効力低下が確認された場合は使用を中止し、他系統の薬剤に切り替えてください。

◎ 子実害虫(マメシンクイガ、フタスジヒメハムシ、ダイズサヤムシガ、カメムシ等)

☆マメシンクイガ

連作ほ場で多発します。8月末～9月はじめに1回目の防除、その7～10日後に2回目の防除を行いましょ。

☆フタスジヒメハムシ

生育初期の葉の食害に加え、若莢の表面を食害し、そこから雑菌が侵入して汚粒の原因となります。第2世代成虫の発生盛期(8月下旬～9月上旬)に防除を行いましょ。

☆ダイズサヤムシガ

若齢幼虫が大豆の生長点付近の新葉をつづり合わせて食害しているとき(右写真)に防除しましょ。



◎ 食葉性害虫(チョウ目幼虫：ツメクサガ、ウコンノメイガ、オオタバコガ、コガネムシ類)

開花期後(特に莢伸長期～子実肥大期)に食害を受けると減収することがあるので、食害葉面積率20%(右下写真)を目安に防除しましょ。



◎ アブラムシ類

モザイク病や萎縮病といったウイルス病を媒介し、多発すると早期落葉して収量・品質が低下します。発生ピークは、8月下旬か～9月上旬ですが、葉の黄化・褐変症状が見られたら(写真右)葉の裏を確認し、発生が多いときには薬剤が葉の裏までかかるよう、丁寧に防除を行いましょう。また、モザイク・萎縮の見られる株は抜き取ります。



※主な病害虫防除薬剤は、「麦・大豆栽培技術マニュアル」(令和7年3月、編集・発行:いしのまき農業協同組合、監修:宮城県石巻農業改良普及センター)を参照してください。

◆湿害対策

◎大雨のあとや降雨が続く際は、ほ場を見回り、排水状況を確認しましょう。

排水溝は詰まっていないか



明きよに停滞水が溜まっていないか

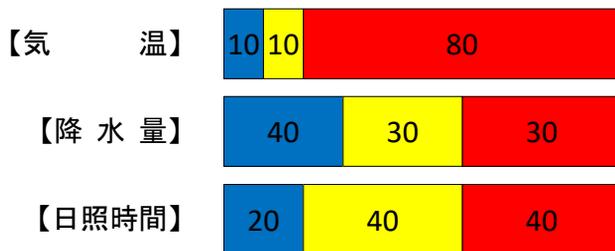


1か月予報 (7/26～8/25)

仙台管区气象台 7月24日発表

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

○1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

○週別気温経過の各階級の確率 (%)



■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 7月26日(土)～ 8月25日(月)
 1週目 : 7月26日(土)～ 8月 1日(金)
 2週目 : 8月 2日(土)～ 8月 8日(金)
 3～4週目: 8月 9日(土)～ 8月25日(月)